

団体名	国立大学法人香川大学 インターナショナルオフィス						
事業名	瀬戸内海の豊かさを守ろう —SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」に向けた地域住民との交流活動を通じた学修と環境改善への貢献—						
実施期間	令和2年12月14日～令和3年1月31日						
場 所	香川大学内						
参加者数	外国人留学生	その他外国人	日本人学生	地域住民	スタッフ 大学関係者	その他 (来場者等)	合計
	6		6	1	6	1	20名

<実施内容>

1. 香川県環境森林部環境管理課里海グループ職員およびNPO法人アーキペラゴスタッフによる講義
 (1) 県の職員より、瀬戸内海の水環境行政の歴史、現在の瀬戸内海が抱える課題、その解決策としての「里海づくり」の取り組み等について、当初の予定どおり対面にて講義をいただきました。
 (2) アーキペラゴスタッフからは、海ごみをめぐる様々な問題、野生生物への影響、瀬戸内海の海洋ごみの実態、マイクロプラスチックが海洋に及ぼす影響等について、アーキペラゴのこれまでの取り組みを紹介しつつ、多数の写真や映像を取り入れた講義をしていただきました。
 同時期に、アーキペラゴスタッフ指導による県内海岸での清掃活動も予定していましたが、直前のコロナ禍の状況悪化により急きょ清掃活動は中止、本講義もオンライン実施となってしまいました。それでも、実体験や豊富な情報に基づく内容の深い講義により、受講生も担当教職員も、改めて身近な瀬戸内海の環境や海洋汚染について深く考える機会となりました。

2. 実施報告書の作成、配布
 計画当初は思いもよらなかった情勢のもと、たびたびの計画変更を余儀なくされましたが、それでも可能な範囲・方法で取り組んだ各種成果を形にし、学内外に広く報告することができました。

(※本事業申請時には、上記以外に「地域の海岸クリーンアップ活動への参加」「大学内での公開形式での成果発表会」「学外ホールでのシンポジウム」も計画していましたが、コロナ禍および集中豪雨のため、いずれも残念ながら実施することはできませんでした。)

<記録写真>



県職員による講義風景



アーキペラゴスタッフによる講義(オンライン)

<参加者からのコメント>

ゲブレサディック キフレハイルさん(エチオピア)/
Kifle Hailu (Ethiopia)

日本へ来て四カ月になりました。香川大学へ来てから「プロジェクトさめき」の講義で海洋問題についていろいろ教えてもらって、ありがとうございました。それらの講義の中から、アーキペラゴの講義を通して、海洋汚染の原因とその悪影響(動物、人間、環境、国の経済に対する影響)を理解しました。それに加えて、海洋汚染に対して提案された解決策についても学び、私の意識と知識を向上させることができました。今後、これらに関する何かイベントや活動がある時、案内をもらったら、積極的に参加します。

ポール プランさん(フランス)/
Paul POULAIN (France)

海洋汚染の現状を紹介していただきました。SDG14「海の豊かさを守ろう」を達成するためには、SDG15「陸の豊かさを守ろう」やSDG17「パートナーシップで目標を達成しよう」も関係があります。
 例えば、太平洋に浮かぶミッドウェー島の話がされました。日本からは遠いですが、海流により日本からの漂流ゴミの影響を深刻に受けています。ゴミは動植物に多くの汚染や悪影響を与えます。動物は害のあるプラスチックを食べたり、捨てられた網にはまったりすることが分かりました。